

# 「罪赦された者」

～証者として～

ローマ8:1～14

『もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行いを殺すなら、あなたがたは生きるのです。』(ローマ8:13) この言葉だけ聞くと、宗教的な感じがしますが、決してそうではありません。「肉」というのは「欲望」です。「御霊」は私たちの内側にある神様から与えられた「正しい良心」です。ですから、この御言葉をおきかえるところです。『もし欲望に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし、正しい良心によって、からだの欲望を制御するなら、あなたがたは生きるのです。』このように言い換えることができます。教会にくると、普段は考えることのないようなことを考えます。私たちの判断や行いを何によって判断しているか・・・？自分を制御して生きるのか。それとも自分に制御されて生きるのか。象使いなのか。象に使われるのか？どちらになるかで、私たちの歩みは大きくかわります。私たちはどんな方法、ルール、プロセス、またどのような基準で日々歩んでいるのか。このことを、しっかりと見ていきましょう。例えば睡眠は、私たちにプログラミングされた、次の日また生きるために必要な、大切な修復作業です。その修復作業は、肉体には3時間、脳には5時間の睡眠を要するといわれています。ですから睡眠というのは、人間を正常に機能させるため必要不可欠な修復作業ではありませんが、神様は私たちにその日常的な睡眠という欲望を、完全にコントロールするように任せて下さっています。それなのに寝たい時に寝てしまおうといった、肉の欲望に従って欲しいままにふるまうことは、主の愛の中で新しい価値観で生きる事と反対の、自己中心的な行為なのではないでしょうか。

「また彼らが、神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。」ローマ1:28

万有引力を派遣したイギリスの自然哲学者、アイザック・ニュートンや、ドイツ人の特殊相対性理論学者、アルベルト・アインシュタインは、自然哲学の数学的諸原理、物理的背景の中で追究した結果、信仰によって義と認められ自由にされ、その神様の新しい価値観の中で、主にあつていかに自分が小さな存在であるかを知りました。私たちは過去の価値観で生きています。しかし私たち信仰に生きる者は、信仰によって自由にされたので、自己中心という古い、過去の価値観にさいなまれて生きる必要はもうありません。

また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。

『彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、わかまえない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。』(ローマ1:28～32)

私たちの内側には罪があり、その罪とは上に書かれてあるような自己中心な心です。自分さえよければ良いという価値観の根源です。この根源が私たちを制御しているが、その根源の罪はすでに赦されて新しくされている。「信仰によって義と認められている」ということがこのローマ書が伝えたいことです。では罪赦された私たちは、どんな法則に従い、何を受け止め理解をし、どこに視線を向けるべきなのでしょう？自分にとって気になる視線が何かを知る必要があります。私たちはどのようなことに気が向くのでしょうか？そこがあなたの古い価値観が生きていところかもしれない。神様が求めておられるのは結果ではありません。成長です。少しずつ成長し、神様に近づいていけば良

いのです。

## ■ ①現状

その為に現状を把握することが大切です。どういう弱さがありますか？それを理解しているでしょうか。否定的な事には決して飲まれず、支配されず、正しい思いで視線をずらすことなくまっすぐに向くべきを向いて歩んでいますか？人との比較をせず、統合されていない自分と戦い続けます。現状を把握していなければ「自分は悪くない」と思ってしまいます。その心があると良くなることはできません。「弱さ」とは「プライド」です。しっかりと、現状を把握していきましょう。

## ■ ②脱出

現状をしっかりと理解をし、気が付いたら即実行をします。把握しても実行しなければ意味がありません。私たちは、分かっちゃいるけど止められない、ではいけません。気が付いたら実行しましょう。そうすれば脱出できます。行えば必ず良い実を結ぶことばできます。出産子どもを育て・・・このプロセスを見るとき私たちの人生を思うことができます。私たちはだれかの労苦によって今があるのです。そのプロセスの中に私たしは生かされていることに感謝をして行きましょう。人は人と向き合い神様と向き合うように創られてれているのです。

## ■ ③証言 習慣に負けない

私たちは自分にある習慣を理解しているでしょうか。習慣を持ったままに、神様の証者として生きていくことはできません。私たちのために十字架にかかって下さって、その覆いと取り払ってくださったのです。鞭打たれ、杭を手足に打ち込まれ、無残な十字架刑にかかったのはあなたの為です。イエス様の「習慣の中に生きるな」という大きな愛を決して忘れないでください。私たちの言動や姿そのまがイエス様の姿なのです。ですから私たちは証者として習慣と戦い、それに負けず、習慣の中に生きることをしませぬ。影響は受けるものではなく与えるものであることを理解して歩んで行きましょう。私たちは自由です。

## 祈りましょう

私たちは、大事なものから目を背け、二番目のものに目をむけてしまいます。ものごとの本質がわからなくなっています。しかし、私たちに一番大事なことは価値観でもないもっと深いいのちです。神の愛から外れてしまったその根源に目を向けさせて下さい。そして、もう一度見つめ直させて下さい。何が正しいか私たちには理解することはできません。しかし聖書はいつもベストを伝えて下さいます。神様が私たちをどのように創られたのかそのことをよくよく理解させて下さい。私たちの本来の自分と間違った価値観を見させてください。ルールで自分を縛り、習慣の中でしか生きて行けなくなってしまっているのなら、その習慣を照らし、その習慣を取り除くことができますように。あなたの良心によって自分を制御していけるように導いてください。あなたに赦されていることに感謝します。神様、私の心を今日新たにしてください。古い習慣に生きませぬ。悪い姿にのまれませぬ。神様を見つめ一歩ずつ前進します。一歩ずつ成長させて下さい。もしあなたがおられるなら、その姿を示して下さい。

(要約者:牧 三貴子)

(7月10日)